

# 令和6年度(4月~令和7年3月) 展覧会のご案内 (観覧料 有料)

## 「美しき手仕事 一新収蔵品を中心に」 第1・2民芸館

令和6年4月9日(火)~6月30日(日)

本展では、「美しき手仕事」をテーマに、近年収集した作品や寄贈を受けた資料を中心に紹介します。第1民芸館では、日本民藝館展の優品、絞り染めなどの染織品、手漉き和紙やざぜちなどを展示。第2民芸館では、故高松静男氏が収集したアイヌの工芸品や瀬戸の石皿、そば猪口など、300点を超える資料の受贈を記念して、多数の優品が含まれた高松コレクションの中から厳選した作品を紹介します。

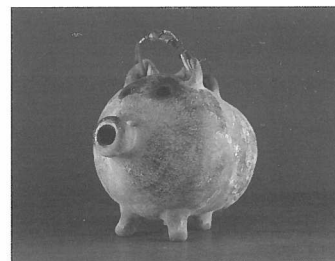


胡桃手提げ籠・山葡萄手提げ籠  
上村健三

## 「或る賞鑑家の眼 一大久保裕司の蒐集品」 第1・2民芸館

7月13日(土)~9月23日(月祝)

青山二郎、安東次男、池田三四郎、白洲正子、秦秀雄、藤田青花、三橋国民、棟方志功、料治熊太等、古美術・骨董界の先達と実際に相見えた数少ない賞鑑家、故大久保裕司氏。その蒐集品は日本の古代から近世までの陶磁器、硝子、木工、金工、民間仏や小道具、朝鮮時代の諸工芸品から西洋アンティークまで幅広い内容で形成されています。本展では大久保氏の元に集まり、氏が愛でていたものを紹介します。

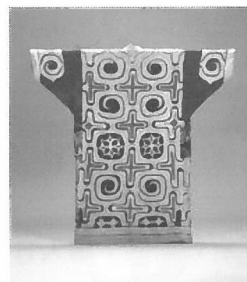


蚊遣り豚

## 「アイヌの美しき手仕事」(日本民藝館巡回展) 第1・2民芸館

10月12日(土)~12月15日(日)

日本民藝館創設者の柳宗悦(1889-1961)は、アイヌ民族の工芸文化に早くから着目し、1941年には美術館で最初のアイヌ工芸展となる「アイヌ工芸文化展」を日本民藝館にて開催しました。その際、染色家・芹沢銈介(1895-1984)は、同展の作品選品や展示を任されており、自身もアイヌの手仕事を高く評価し蒐集しました。本展では柳と芹沢の眼によるアイヌ工芸の蒐集品を、日本民藝館と静岡市立芹沢銈介美術館の所蔵品から紹介します。また、当館に近年寄贈された高松コレクションによるアイヌの工芸品もあわせて展観します。



木綿地切伏刺繍衣裳 19C  
日本民藝館蔵

## (仮)「民窯 一食のうつわ」 第1・2民芸館

令和7年1月11日(土)~4月6日(日)

「民窯(みんよう)」とは、一般民衆が日々の生活のなかで使う器や道具などを焼く窯、またはそのやきもの自体を指します。民窯という言葉は「民藝」という言葉とともに昭和初期から広く使われるようになりました。今回の展示では、愛知県の瀬戸焼や常滑焼はもちろん、北は岩手県の久慈焼、南は沖縄県の壺屋焼まで、職人の手仕事による食にまつわるやきものを紹介します。



瀬戸本業窯のやきもの

## 民芸館ギャラリー(第3民芸館)のご案内(観覧料 無料)

令和6年5月19日(日)まで……………令和5年度民芸館講座作品展

6月1日(土)~ 9月8日(日)……………公募期間

9月14日(土)~ 9月29日(日)……………第9回 伝承拳母木綿展

10月12日(土)~ 12月15日(日)……………アイヌの生活 高松コレクションを中心に

12月21日(土)~令和7年2月2日(日)……………郷土玩具展 干支と巳

2月18日(火)~ 5月18日(日)……………令和6年度民芸館講座作品展

この展示案内は、年間計画のため今後日程・内容等が変更となることがあります。